

令和7年度事業報告書(案)

自 令和7年 4月 1日
至 令和8年 3月31日

一般財団法人 AVCC

目次			
はじめに	5		
I 霞が関ナレッジスクエア事業	9		
【重点事業】	9		
(1) KK ² Webサイトリニューアルによる「デジタル公民館@」サイクルの実現	9		
【継続事業】	11		
(1) Advanced Valuable Communicationの実現	11		
(2) 時代の変化と向き合い考え学ぶプログラムの提供	16		
(3) 共生社会の実現に向けて	20		
(4) 自分と向き合いレジリエンスを向上するプログラムの提供	21		
(5) デジタル化支援業務	26		
(6) 事業運営	28		
II イノベーション企画部	33		
【重点事業】	33		
(1) 「世の中のためになる仕事」の推進	33		
(2) 新たな取り組みへの「挑 戦」	34		
【各事業別報告】	35		
(1) 防災行政無線システム関連(設計/施工監理)	35		
(2) 消防システム・無線関連(設計/施工監理)	37		
(3) 防災情報システム関連	38		
(4) 防災計画・訓練関連	39		
(5) 調査・研究関連	39		
(6) ネットワーク設計関連	40		
(7) 情報セキュリティ関連	40		
III デジタルイノベーション部	42		
(1) 法人向けデジタル化支援事業	42		
(2) TV会議システム/Web会議システムの構築、運用、保守管理業務	43		
(3) 各種運営支援業務(映像情報システムの構築、運用、保守管理業務)	44		
		(4) 自治体・地方公共団体向けAVシステムの構築、運用、保守管理業務	45
		(5) 自治体・地方公共団体向け防災行線無線の保守管理業務	45
		IV 教育イノベーション推進部	46
		【重点事業】	46
		(1) 寄り添いベンタ	46
		(2) KK ² エデュケーションサービスの提供への技術協力	47
		【継続事業】	47
		(1) 日本生命保険相互会社 NICE-NETサービスの提供	47
		V 教育情報サービス部	49
		【重点事業】	49
		(1) A I 活用への取り組み	49
		(2) KK ² 「しごと力向上」の教材開発	49
		(3) 「健康寿命」延伸の動画コンテンツ制作	50
		【継続事業】	50
		(1) 日本生命保険相互会社 NICE-NET番組制作	50
		(2) e-Learning運用支援業務	51
		(3) スタジオ運用	51
		(4) 中継・配信業務	51
		VI 人材育成支援事業	52
		VII AVCC組織運営に関する事項	53
		(1) AVCC・メディアリンク マネジメントシステム	53
		(2) AVCC賛助会	55
		(3) AVCC相互協力協定(MOU)締結組織	55
		(4) AVCC & KK ² 事業説明会の開催	55
		VIII AVCC・メディアリンクの人財の拡充と育成	57
		(1) AVCC・メディアリンクが求める人財像	57
		(2) 公的資格取得支援	57
		(3) 業務に活用できるA I の利用環境の充実に図る (IT総務部 ITチーム)	57

(4) 社内インフラの管理およびメンテナンスの強化 (IT総務部 ITチーム)	58
(5) 業務効率化に繋がる新しい技術の探索および導入 (IT総務部 ITチーム)	58
(6) 従業員の働く環境をサポート (IT総務部 総務グループ)	59
IX 運営に関する事項	60
(1) 役員名簿	60
(2) 会議の開催	60
(3) 会員等 (令和8年3月)	62

はじめに

令和7(2025)年度の事業報告にあたり、AVCCが直面した諸課題と、それに対応して展開した課題解決への取り組みをここに総括します。

1. 歴史的転換期におけるAVCCの使命

令和7年度は、国内外において「歴史的転換期」とも言える大きな変化の渦中にありました。地球温暖化の影響とみられる記録的な猛暑や豪雨が日本列島を襲い、日々の生活を支える物価の上昇が人々の暮らしを直撃しました。国際社会に目を向ければ、既存の秩序が揺らぎ、悲しい紛争や対立が絶えない状況が続いています。国内では、超少子高齢化と人口減少に伴う社会システムの綻びが顕在化し、世代や地域、価値観の違いによる「分断」が深刻な課題として浮き彫りとなりました。

このような不確実で不安な時代において、一般財団法人AVCCの公益目的事業である霞が関ナレッジスクエア(KK²)は、「共に考え、共に学び、共に担う社会へ」というミッションを堅持し、誰もが孤立せず、主体的に未来を切り拓くための「学びの場」を提供し続けてきました。令和7年度は特に、デジタル技術の進化を人間の幸せにどう結びつけるか、そして多様な情報が溢れる中でいかに健やかに生きるかという問いに対し、具体的な事業を通じて答えを模索した一年でありました。

2. デジタル社会の進展と「IoP」の提唱

現代社会は、AI(人工知能)やIoT(モノのインターネット)が急速に浸透し、利便性が飛躍的に向上しています。しかし、技術の進歩の一方で、それを使いこなせる者とそうでない者の間に「デジタルデバイド(情報格差)」が生じ、社会的な孤立や不利益につながる新たな「分断」を生んでいます。

AVCCは、単に「モノ」がつながるだけの社会ではなく、デジタル技術を通じて人と人の思いや意見が共有され、共感や理解が生まれる「IoP(Internet of Persons=人のインターネット)」の実現を提唱しました。デジタル技術は、高齢者や障がいのある方に寄り添い、地方や状況を問わず誰もが社会に参加し、対話ができるための道具として活用されなければなりません。

その実践例として、岩手県大船渡市での「デジタル公民館@まっさき」活動では、地域の文化祭において「AI体験コーナー」を出展しました。10代から80代までの幅広い層が、カメラ検索や会話型AIを通じて技術の利便性を体験しました。その一方で、日常的なスマートフォンの操作方法やセキュリティへの不安といった切実な「デジタルの困りごと」も数多く寄せられ、地域の中で「得意な人」が「不得意な人」を支える「学び合いの輪」の必要性を改めて確認しました。また、高齢者がスマートフォン活用への一歩を踏み出すための応援動画『スマホでひらく“新たな人生の扉”』を制作し、デジタル活用の具体的なメリットを伝える活動にも注力しました。

3. 情報的健康と民主主義の質

現代は、人々の関心を集めること自体が経済的価値を持つ「アテンション・エコノミー」の時代です。SNS等のアルゴリズムにより、心地よい情報ばかりが選別されて届く仕組みは、知らず知らずのうちに「情報の偏食」を引き起こすリスクを孕んでいます。これが、異なる意見を持つ者を「敵」と見なす対立の先鋭化を招き、社会の分断を深める要因となっています。

AVCCは、多様な情報にバランス良く接し、フェイクニュースや情報偏食に対する免疫力を獲得した状態と定義される「情報的健康」の促進を事業の柱の一つに据えています。多数決で物事を決定するだけでなく、少数派の声に丁寧に耳を傾け、すべての人の尊厳を尊重する姿勢こそが、デジタル社会における民主主義の本質です。

令和7年度は、この「情報的健康」を支える基盤として、KK²Webサイトの大規模なリニューアルを実施しました。ユーザーが求める情報へ迅速にアクセスできるよう、ナビゲーションの改善や検索機能の向上を図り、リニューアル後のウェブトラフィックは13.5%増加しました。また、対面機会が減少する現代社会において不可欠な「話す力」と「聴く力」を客観的に見直すため、「話力コミュニケーションチェック(WCC)」を新規公開しました。これは人間関係力、表現力、論理的思考力など6つの領域からコミュニケーション力を多面的に測定するものであり、自らの現在位置を知る学びのスタート地点として活用されています。

4. レジリエンスの向上

自然災害や経済変動といった大きな変化にしなやかに対応する力である「レジリエンス」の向上も、AVCCの重要なテーマです。かつて戦国武将の武田信玄が「信玄堤」を築き、自然の猛威を力で押さえ込むのではなく、流れをいなして受け流したように、現代においても人間の知恵と工夫、そして周囲との協働で困難に立ち向かう姿勢が求められています。

令和7年度の「レジリエンス道場」では、群馬県渋川広域消防本部の組織改革の軌跡や、川崎市菅町会による8000世帯の命を守る防災活動を学び、地域コミュニティにおける共助の重要性を広く発信しました。また、お米の価格急騰といった生活の足元を揺るがす事態(令和の米騒動)に対しても、環境データの可視化や食の安定という基本的な営みに立ち返ることの重要性を提起しました。

5. 主体的な行動と感謝による社会構築

社会の閉塞感を他者のせいにする「他力本願」に陥るのではなく、一人ひとりが自らの課題として社会と向き合う主体性を持つことが、未来を好転させる唯一の道です。世界全体を俯瞰する「鳥の目」、身近な現場の課題を見つめる「虫の目」、そして時代の大きな流れを読み取る「魚の目」の3つの視点を持ちながら、行動を起こすことが今こそ求められています。

社会に広がる「分断」を埋めるための出発点は、周囲への「感謝」の心にあります。自らを支えてく

れる目に見えない多くの存在に気づき、「お蔭さまで」「お互いさまで」という謙虚な姿勢で他者と対話することが、互いを尊重し合うレジリエントな社会を築く礎となるのです。日本の元号「令和」に込められた「Beautiful Harmony(美しい調和)」という精神は、力で争うのではなく、多様な人々が調和して共に生きる社会の理念そのものです。

6. 安心安全な社会を支える基盤づくりと目指す未来

現代の社会生活において、人々が当たり前のように享受している「安心と安全」の裏側には、目に見えない強固なインフラと、それを支える多くの人々の尽力があります。例えば、東京都内では日々2,044台もの消防車や救急車が稼働しており、119番通報があれば迅速に現場へと駆けつけます。この当たり前の日常は、消防署と各車両がリアルタイムで連絡を取り合う堅牢な通信インフラによって支えられているのです。

東京消防庁 消防救急デジタル無線(共通系)設備構成イメージ図



AVCCは、社会実装事業の一環として、この東京消防庁の「消防救急デジタル無線(共通系)」の更新事業に深く参画しています。本事業では、島しょ部を除く特別区および多摩地区全域を対象に、センター設備(無線回線制御装置)や都内各所に設置された基地局の無線装置、電源装置等の大規模な更新を行っています。これは既存の民間通信キャリアの回線に依存しない、災害時にも強い独自の専用ネットワークシステムです。AVCCは、そのシステム更新設計から施工監理、さらには多忙な消防庁職員に代わって据付・調整作業の立会検査に至るまで、全設備の設計監理を担い、確実な実運用へと導いています。これらの事業は、直接人目に触れることは少ない裏方の業務ではあるものの、人命を守り、社会の安心と安全を根底から支える極めて重要な役割を果たしているのです。

AVCCが真に目指す社会は、AIやデジタル技術を使いこなせる一部の人がだけ利便性を享受する社

会ではありません。すべての人が、WHO(世界保健機関)が定義する「身体的、精神的、社会的にすべてが満たされたウェルビーイング(well-being)な状態」としての健康と、多様な情報にバランスよく触れる「情報的健康」を保ちながら、自分で考え、自分らしく、安心して暮らせる社会の実現です。

この理想を実現するためには、単なる技術の導入にとどまらず、人々の間に「Advanced Valuable Communication(高度で価値あるコミュニケーション)」を社会実装していくことが不可欠なのです。AVCCは今後も、多様なステークホルダーとの協働を通じ、大きな変化にもしなやかに対応できる「レジリエントな地域」と「レジリエントな人材」の育成に全力を注いでいきます。

最後になりますが、日頃よりAVCCの活動に多大なるご支援とご協力をいただいている賛助会員、KK²協賛メンバー、MOU締結団体、KK²講師、そしてすべての関係者の皆様に、心より深く感謝を申し上げます。

I 霞が関ナレッジスクエア事業

霞が関ナレッジスクエア(KK²)は、AVCCの公益目的事業として「共に考え、共に学び、共に担う社会へ」をミッションに掲げ、“いつでもどこでも誰もが学べる”民設民営の「デジタル公民館®」活動を推進しています。開設当初より取り組んできた「しごと力向上」、3.11東日本大震災が契機となった「レジリエンス」、そして急速なデジタル社会の到来による「デジタル格差」など社会の変化に合わせて多様なテーマに取り組んできました。KK²活動そのものが「情報的健康」に資する活動となることを目指し推進しています。令和7年度の活動報告は以下の通りです。

【重点事業】

(1) KK²Webサイトリニューアルによる「デジタル公民館®」サイクルの実現

令和7年度の重点事業として、「デジタル公民館®」活動の基盤であるKK²Webサイトのリニューアルを実施しました。当サイトには、学習を希望される方や、レンタルサービスを活用してイベントを開催したい方など、多様な目的を持つ方々が訪れます。これまで「求める情報へアクセスしづらい」という声をいただいておりますので、ユーザーが必要な情報へ速やかに到達できるよう、Webサイトの改善を行いました(令和7年6月14日公開)。

リニューアルの効果として、情報の探しやすさ、閲覧のしやすさが向上し「ウェブのトラフィック」(主にPCやタブレットからのアクセス)が13.5%増加しました。また検索エンジンからの訪問者が11.4%増え、必要な情報が見つかりやすくなりました。(リニューアル前後3カ月間での比較)リニューアルの内容は以下の通りです。

① トップページのナビゲーション改善

「KK²で学ぶ」「KK²を利用する」の2つに入りを分け、訪問者のニーズに合わせて、利用したいサービスや求める情報へ直感的にアクセスできるようナビゲーションを改善しました。

<リニューアル後のKK²トップ画面>



②検索機能の向上

動画は「テーマ」「出演者」「コンピテンシー」での検索が可能となりました。また、メールマガジン「メッセージfromKK?」のバックナンバーについては、「執筆者」での絞り込みや並び替えができるよう機能を改善しました。



③リコメンド機能の強化

マイページの機能を充実させました。「あなたへのおすすめ」では、視聴履歴から「テーマ」「出演者」「コンピテンシー」に紐づき、おすすめ動画の提供機能を強化しました。

また「受講中プログラム」「申込み・購入履歴」では、受講中のセミナー・講座と申込み中のプログラムが表示され、受講画面への遷移や申込みプログラムの確認が容易になりました。「セルフチェック」では、自身のチェック結果がグラフ表示され、現在の状況を確認でき再回答も簡単にできるようになりました。

＜リニューアル後の画面(マイページ)＞



④レスポンス性の最適化による利便性、メンテナンス性の向上

レスポンスデザイン最適化を図り、パソコン、タブレット、スマートフォンなど、どのデバイスでも快適に閲覧できるよう改善しました。動画視聴画面では、視聴しながらレビューやチャット、プログラム内の他の動画を確認できるようになり、利便性が大幅に向上しました。また、従来はパソコン用とスマートフォン用にそれぞれ情報を登録していましたが、リニューアル後は情報登録を一本化し、メンテナンス性の向上も実現しました。

＜パソコン画面＞



＜スマホ画面＞



なお、Webアクセシビリティ向上を目指し「音声入力での操作」「動画の字幕表示」を予定していましたが、今回のリニューアルでは対応ができませんでしたので、今後継続的に取り組みます。

また、KK?Webサイトでは令和7年11月から脆弱性診断ツールを導入し「セキュリティ対策」の強化に取り組んでいます。

【継続事業】

(1) Advanced Valuable Communicationの実現

AVCCの目指す「Advanced Valuable Communication(高度で価値あるコミュニケーションの社会実装)」の実現に向け、それに寄与する各種サービスの提供を推進しました。

-1 KK?エデュケーションサービスの提供 (技術協力：株式会社メディアリンク)

教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)支援を目的に、デジタルプレゼンテーションプラットフォーム

フォーム(DPP)を活用した「KK²エデュケーションサービス」を提供しています。令和7年度上期は、KK²Webサイトのリニューアルに合わせ、「教育DX支援サービス」のページを新設し、本サービスの紹介および申込みのための環境を整備しました。今後、企業・組織・団体での利用拡大を図ってまいります。



KK²エデュケーションサービスの構成図

①セルフチェックサービス

学習者自身が「理解度」を測定し、所属するコミュニティでの自身の位置(順位)を把握することで、自学自習を促進するサービスです。チェック後に提示される「アドバイス」や「おすすめコンテンツ」により学習への動機付けを行い、自律的な学びをサポートします。

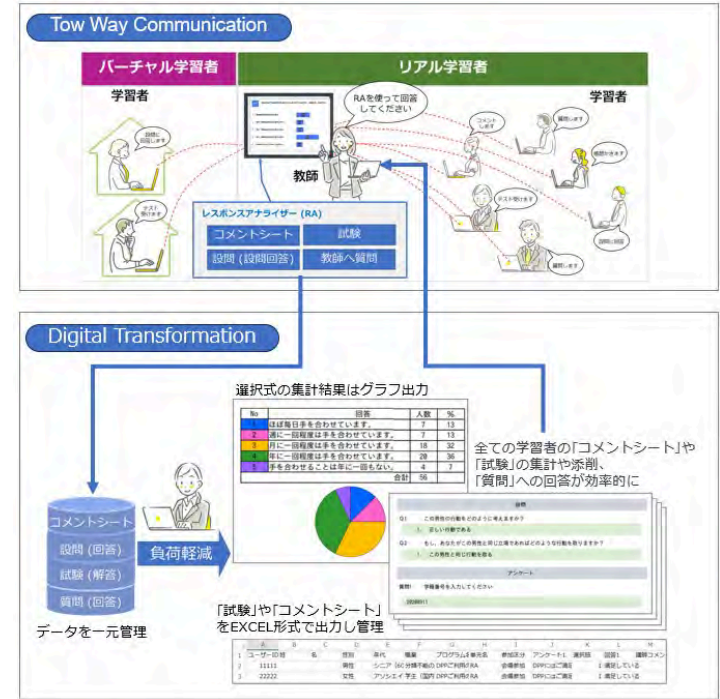
令和7年度は、既存の「[コンピテンシー・チェック](#)」「[デジタル活用力チェック\(DKC\)](#)」「[デジタルしごと力チェック\(DSC\)](#)」に加え、新たに「[話力コミュニケーションチェック\(WCC\)](#)」を公開しました(令和7年8月28日)。

* (4) -3「セルフチェックの開発・提供」参照(P23)

②レスポンスアナライザ (RA) サービス

レスポンスアナライザ(RA)は、双方向(Two Way Communication)での教育実践を支援するサービスです。講師と学習者(対面およびオンライン)による対話型教育を実現し、全てのデータをオンライン化することで、講師の「[負荷軽減](#)」と「[働き方改革](#)」に貢献します。設問への回答やコメント登録、アンケート、テストなどの機能を備え、これらをデジタルデータとして管理することが可能です。

RAサービス概念図



令和7年度は、引き続き3大学における講義での活用を含め、計309回、延べ25,591名の方々にご利用いただきました。

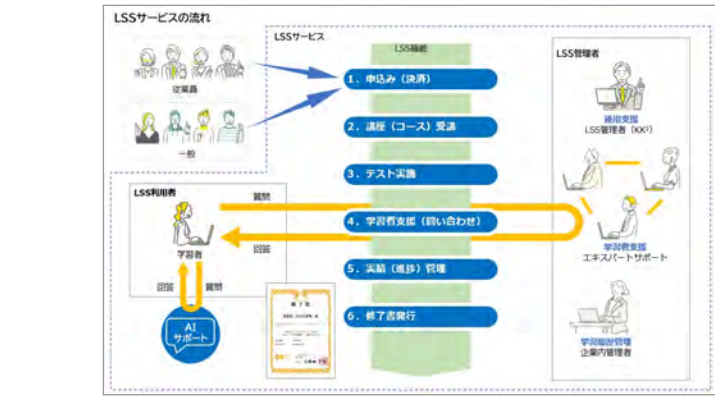
上期	RA利用回数	RA利用人数
4月	25	3,225
5月	46	5,247
6月	40	5,125
7月	37	3,188
8月	11	990
9月	19	1,213
小計	178	18,988

下期	RA利用回数	RA利用人数
10月	42	2,611
11月	39	2,056
12月	29	1,549
1月	13	356
2月	5	17
3月	3	14
小計	131	6,603
合計	309	25,591

③ラーニングサポートシステム (LSS)サービス

テキストや動画を用いたオンライン教材により、「自学自習」を促進するサービスです。確認テストによる理解度の把握に加え、生成AIによる「AIサポート」や学習支援者による「エキスパートサポート」を備え、学習の継続を後押しします。活用事例として、KK²の「Pythonプログラム講座」(3講座)を提供中です。また、令和6年7月からは協賛メンバーのANAウィングフェローズ・ヴィ王子株式会社

が主催する「ANAユニバーサルスタンダード検定」(3検定)にも導入されています。



④ラーニングマネジメントシステム(LMS)サービス

3つの学習形態(リアル・集合/ライブ/オンデマンド)を組み合わせ、「自分で自分を育てる」自律型人材の育成を支援するサービスです。KK²協賛メンバーであれば、自社教材がなくとも、KK²が提供する「しごと力」動画プログラムを教材として活用できます。

令和7年度の利用実績は、3団体・1,219名でした。

No	組織・団体	学習者対象者数	コース数	プログラム数
1	A	1,118名	2	21
2	B	96名	3	15
3	C	5名	3	3

⑤協賛メンバーページ

ログイン時のドメイン識別により、組織ごとの専用ページを表示するサービスです。推奨プログラムの提示やオリジナル教材の登録、DPPの利用に加え、専用の管理画面によるページ編集や学習履歴の管理機能を提供しています。

令和7年度は、2団体において3,645名の学習の場として利用されました。

No	組織・団体	協賛メンバー数
1	D	3,584名
2	E	61名

-2 KK²オンラインコンシェルジュサービスの推進(レンタルスペース事業)

レンタルスペース(スタジオ、ラウンジ、エキスパート倶楽部)において、オンラインとリアルを組み合わせた「ハイブリッド形式」での講演・会議等に対応する設備を完備しています。当日の機材運用や収録に加え、申込受付・決済代行から終了後のアーカイブ公開まで、イベント開催を一貫して支援します。コンシェルジュによる最適なプラン提案を行い、利用者の業務負荷を軽減するトータルサポートが特徴です。

令和7年度は、スタジオ167回、ラウンジ251回、エキスパート倶楽部9回の貸出を行い、計6,021名が利用しました。海外からのオンライン登壇者と会場を繋ぐパネルディスカッションなど、ハイブリッド形式でのイベント開催に多数活用されています。

	スタジオ		ラウンジ		倶楽部		KK ² 施設 利用者数 合計
	利用者	貸出回数	利用者	貸出回数	利用者数	貸出回数	
令和7年度	4,025名	167回	1,766名	251回	230名	9回	6,021名

(2) 時代の変化と向き合い考え学ぶプログラムの提供

多様な視点を知る機会の提供を通じて、情報的健康の促進に資するプログラムを開発・提供しました。

-1 「デジタルTERA小屋」企画・開催

江戸時代の「寺子屋」をヒントに、デジタル社会における「TERA」サイズの学びの場として、「デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～」をシリーズ開催しています。既存の枠組みにとらわれず新たな価値創造や課題解決に取り組むエキスパートをゲストに招き、これからの生き方について参加者と共に考え、学ぶプログラムです。

令和7年度は、2回開催し、各回とも、30分の基調講演の後、伊庭野基明モデレーターの進行で活発な質疑応答が行われました。

【令和7年度開催実績】

- ・第12回「スポーツの力で ころを育てる ～女子プロゴルファーが選んだ、教育者の道～」

開催日：令和7年10月10日

ゲスト：石原 端子氏

(沖縄大学准教授／プロゴルファー)



- ・第13回「コミュニケーションの理想と現場のリアル～アサーションで変わる！～」

開催日：令和8年1月23日

ゲスト：並木 友里氏

(株式会社日本・精神技術研究所
心理サービス部マネージャー)



デジタルTERA小屋	開催日	会場参加者	ライブ配信	内訳メンバー	内訳Web会員	内訳学生	動画視聴者数	合計
第12回	2025/10/10	24名	16名	18名	19名	3名	232回	272名
第13回	2026/1/23	19名	14名	12名	17名	4名	304回	337名
合計	—	43名	30名	30名	36名	7名	536回	609名

-2 「メッセージfromKK2」(メールマガジン)の発行

KK2Web会員向けにメールマガジンを定期配信(毎週金曜日)しています。多様な分野で活躍する方々からの寄稿を通じて、読者に多様な視点を提供し、「情報的健康」の一助となることを目指しています。また、Webサイトへの[バックナンバー掲載](#)に加え、公式YouTubeでは[AI読み上げ動画を公開し](#)、視覚障害のある方にもご活用いただけるよう音声による発信も行っています。なお、Webサイトリニューアルによりバックナンバーを「執筆者」「キーワード」での検索が可能となりました。

令和7年度は、AVCC理事長の久保田了司をはじめとする当財団理事・評議員の古賀 伸明氏、田中 純一氏、伊庭野 基明氏、秋田 義一氏、平田 英世氏、石原端子氏、MOU締結団体である株式会社タフ・ジャパン代表の鎌田 修広氏や慶應義塾大学大学院法務研究科教授 山本 龍彦氏に寄稿いただきました。実績は、全52回配信、購読者数20,066名(令和7年3月末日時点)、平均開封率は32.2%、メール内URLの平均クリック数は371回でした。

令和7年度発行 メッセージfromKK² 一覧

配信日	発行	タイトル	担当
2026/3/27	935	ノックシーの正体は？	古賀 伸明
2026/3/20	934	首都直下地震の新・被害想定 要配慮者250万人の衝撃	田中 純一
2026/3/13	933	デジタル社会の「身を守る力」ー 防御は、前へ進むための努力ー	伊庭野 基明
2026/3/6	932	ご先祖様に守られている	久保田 了司
2026/2/27	931	解散は例外であるべき	古賀 伸明
2026/2/20	930	2026 旧正月の誓い	石原 端子
2026/2/13	929	「内なるグローバル化」の今とこれから	伊庭野 基明
2026/2/6	928	明日はどうなる？	久保田 了司
2026/1/30	927	情報的健康を意識してーアテンション・エコノミーの時代を健やかに生きるために	山本 龍彦
2026/1/23	926	年賀状	古賀 伸明
2026/1/16	925	首都直下地震のあらたな被害想定が公表されました	秋田 義一
2026/1/9	924	世界の学生移動はどこへ向かうのかー Open Doors 2025が映す「これからの日本」	伊庭野 基明
2026/1/2	923	恭賀新年：分断をうるめる案は「感謝」しかない	久保田 了司
2025/12/26	922	深まるGゼロ世界の混迷	古賀 伸明
2025/12/19	921	労働規制の緩和	平田 英世
2025/12/12	920	「アフオーダビリティ」とは ー私たちの暮らしをどう維持するかー	伊庭野 基明
2025/12/5	919	社会の質を高めるデータ活用社会の実現へ	久保田 了司
2025/11/28	918	閉幕したデフリンピック	古賀 伸明
2025/11/21	917	10月10日をふり返る	石原 端子
2025/11/14	916	心を育てる力 ースポーツから学ぶ他者配慮ー	伊庭野 基明
2025/11/7	915	超高齢社会とデジタル社会のジレンマ	久保田 了司
2025/10/31	914	伝説の休日に寄せて「第29回」JFFW基調講演	鎌田 修広
2025/10/24	913	ノーベル賞2人同時受賞	古賀 伸明
2025/10/17	912	3つの健康を保ち、Society5.0を生き抜こう	秋田 義一
2025/10/10	911	日本のレジリエントな時間感覚	伊庭野 基明
2025/10/3	910	私は「情報的健康」なのだろうか？	久保田 了司
2025/9/26	909	政治空白	古賀 伸明
2025/9/19	908	東京のゲリラ豪雨に何を思う	田中 純一
2025/9/12	907	あんまりにも高いき、たまるかぁ！	久保田 了司
2025/9/5	906	「スポーツの力でこころを育てる」ー奇跡の逆転優勝を果たした女子プロゴルファーに聞くー	伊庭野 基明
2025/8/29	905	今やるべきことは「治水」と「検地」です	久保田 了司
2025/8/22	904	酷暑の夏 私たちにできること	古賀 伸明
2025/8/15	903	沖縄を知り、沖縄に学ぶ	石原 端子
2025/8/8	902	「グローバル社会と日本人」を再考するー多様な今に向き合うー	伊庭野 基明
2025/8/1	901	選挙中に考えた「日本人の定義」	久保田 了司
2025/7/25	900	誰にでも起こり得る冤罪	古賀 伸明
2025/7/18	899	投票率をあげるためのあいさつ運動	秋田 義一
2025/7/11	898	「多元性 (Plurality) 」の視座ー人間の理性とネット選挙ー	伊庭野 基明
2025/7/4	897	我が人生でー押ししの映画と出会いました	久保田 了司
2025/6/27	896	記憶に残り続ける長嶋茂雄さん	古賀 伸明
2025/6/20	895	詐欺メールにご用心	平田 英世
2025/6/13	894	大阪・関西万博で見たこと、考えたことー更なるICTリテラシーをー	伊庭野 基明
2025/6/6	893	「主体性を持って新たな未来を創造したい」と願うあなたへ	久保田 了司
2025/5/30	892	令和6年能登半島地震の実例から学ぶ「企業の復旧事例集」	鎌田 修広
2025/5/23	891	麻雀の新しい風	古賀 伸明
2025/5/16	890	スポーツ体験をアウトプットすることの楽しさと難しさ	石原 端子
2025/5/9	889	「考えるという力」ーAI時代、今こそ求められるコンピテンシー教育ー	伊庭野 基明
2025/5/2	888	スマホでひらく「新たな人生の扉」	久保田 了司
2025/4/25	887	トランプショックの本質と日本	古賀 伸明
2025/4/18	886	印象に残る 自分の魅力を伝える自己紹介を工夫しよう	秋田 義一
2025/4/11	885	やがて来るか「日本社会の多様化」	伊庭野 基明
2025/4/4	884	IoTから「IoP (Internet of Persons) 」へー人間中心のデジタル社会をめざして	久保田 了司

なお、開封率につきましては、Apple社の「Mail Privacy Protection(MPP)」や企業のセキュリティ対策による機械的な開封数の増加(配信後5分以内の開封数が昨年比で急増など)が見られるため、絶対的な数値指標ではなく、傾向把握のための相対指標として位置づけています。

このような状況を踏まえ、より実質的な評価を得るため、令和7年度11月より、巻頭メッセージにアンケート(10秒アンケート/匿名)を設置する取り組みを開始しています。数値データだけでなく、読者からの直接的なフィードバックを収集することで、よりニーズに合ったコンテンツ提供を目指します。

-3 しごと力向上に資するプログラムの開発・提供 (技術協力：株式会社メディアリンク)

KK²では、「社会で活躍するために必要な力」を「しごと力」と定義しています。これは、知識やスキルに加え、KK²コンピテンシー、レジリエンス(変化にシなやかに対応する力)を含む総合的な能力です。

①「しごと力向上ライブラリ」の開発・提供

社会で活躍するために必要な「しごと力」を学べる動画プログラムとして、現在106講座、376単元(令和8年3月現在)を公開しています。ビジネスマナー、IT、マネジメント、法律、健康、生活文化といった多様なテーマを学習でき、動画視聴後のレビュー(評価)投稿や、一部では理解度確認テストも利用可能です。

令和7年度は、Webサイトリニューアルにより「テーマ」「出演者」「コンピテンシー」での検索が可能となり、目的の動画へのアクセス性が向上しました。また、スマートフォンの活用に関わる新プログラム「5分でわかる！スマートフォンのカメラ活用術 1.写真を撮ってみよう！」「2.動画撮影にチャレンジ！」を公開しました。動画再生回数は、それぞれ211回、143回でした。



講座名	オンデマンドレビュー（5段階評価）	
5分でわかる！スマートフォンのカメラ活用術】	4.8	
単元名	公開日	再生回数
1.写真を撮ってみよう！	2025/10/30	211
2.動画撮影にチャレンジ！	2026/1/8	143
	合計	354

なお、「『アサーション』で築く素敵な人間関係」（令和2年度公開）は、公開以降視聴ランキング上位の人気動画プログラムとなっています。令和7年度も公民館や広告代理店より、動画視聴や教材の「アサーション度チェックリスト」を利用した研修開催についての許諾の問い合わせをいただきました。また、同プログラムの講師・監修元である日本・精神技術研究所様より講師を招き、「デジタルTERA小屋」でアサーションをテーマにハイブリッドセミナーを開催しました。

②オンラインで自学自習「Pythonプログラム講座」の開発・提供

KK²は「デジタル公民館®」として、「いつでもどこでも誰でも」デジタルスキルを習得できる環境を提供し、得意な人が不得意な人を教える「学び合い」の促進を通じて、デジタルデバインド(情報格差)の解消を目指しています。この取り組みの一環として、令和4年度より「Pythonプログラム講座」の教材提供を開始しました。多くの方に入門いただき、自ら課題を発見し解決できるデジタル人材の育成につなげることを目的としています。

具体的な学習手段として、ラーニングサポートシステム(LSS)を活用した「Python基礎講座(無償)」「Python IoT応用講座(有償)」「Pythonビジネス講座(無償)」の3講座を提供しており、AIやエキスパートの支援を受けながら自学自習できる点が特徴です。

令和7年度は、基礎講座で57名(全受講者数205名)、IoT応用講座で4名(同10名)、ビジネス講座で8名(同37名)が新たに受講しました。

No	講座名	区分	レッスン数	公開開始日	申込み人数	受講中人数	受講修了人数
1	Python 基礎講座	無料	14	2023/05	205(57)	124(36)	33(6)
2	Python IoT 応用講座	有料	21	2023/08	10(4)	5(3)	5(1)
3	Python ビジネス講座	無料	3	2024/05	37(8)	14(1)	3(2)

※申込み人数の()内の数字は、令和7年度の人数

(3) 共生社会の実現に向けて

対話しわかりあう共生社会の実現を目指し、デジタル公民館®として、学びの場と多様な人材の働く場の提供を推進しました。

-1 「障がい当事者が語る！コミュニケーションのバリアフリー」の活用

令和7年度は、令和6年度に企業の雇用側を対象として開発した「障がい者と共に働く共生社会『量から質へ』」(5単元シリーズ)の普及、およびANAウィングフェローズ・ヴィ王子株式会社が提供する「ANAユニバーサルスタンダード検定」の活用を推進し、バリアフリーコミュニケーションを学ぶ機会の拡大に努めました。

本検定は、多様性を認め合い、課題を抱える人々に寄り添える人材の育成を目的に創設されたものです。教材にはKK²が開発した「障がい当事者が語る！コミュニケーションのバリアフリー」が、運営基盤にはKK²のラーニングサポートシステム(LSS)が採用されています。これにより、受講者は動画視聴による学習から確認テストの実施までを、場所を選ばずスムーズに行うことができます。

令和7年3月より「ブロンズ(3級)」、令和7年11月より「プラチナ(2級)」「ダイヤモンド(1級)」の一般公開を開始しました。令和7年度の受講実績は以下の通りです。

- ・「ブロンズ」 1,061名
- ・「プラチナ」 382名
- ・「ダイヤモンド」 240名

-2 多様な方たちの働く場 交流カフェ「エキスパート倶楽部」運営

「エキスパート倶楽部」の一般営業(ランチ・カフェ業務)は、障がいのある方の就労拠点の一つとして、MOU締結団体である社会福祉法人むそうの運営協力のもと行っています。

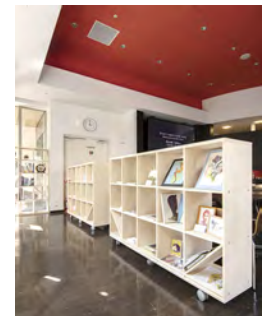
令和7年度は、6,147名が利用しました。

営業時間：ランチ 11:30～14:30 / カフェ 14:30～18:00

運営協力：社会福祉法人むそう

① 「CuBookGallery」～シェア型ギャラリー～運営

令和5年度に交流カフェ「エキスパート倶楽部」内に開設した「棚貸し本屋・アートギャラリー」です。書店の空白地帯である霞が関三丁目において、多様な情報発信・交流の場となることを目指しています。令和7年度は、2名による棚貸し利用があったほか、古書の販売も行いました。



(4) 自分と向き合いレジリエンスを向上するプログラムの提供

KK²では、「変化にしなやかに対応する力」を「レジリエンス」と定義しています。自分自身と向き合い、変化の激しい時代における生き方を考えるヒントとなるプログラムを提供しました。

-1 KK²キャリア相談室の実施・普及促進

「KK²キャリア相談室」は、職業紹介を行わない、キャリア相談に特化したカウンセリングサービスです。転職や就職だけでなく、職場での悩み、仕事と家庭のバランス、将来への漠然とした不安など、幅広いテーマについて経験豊富なカウンセラー(4名)に相談することができます。令和7年度は6名(オンライン3名、対面3名)が利用しました。

カウンセラー紹介

<p>オンライン</p> <p>堀田 治見</p> <p>株式会社トップ・ノッチ(人材育成及びキャリアコンサルティング)代表取締役。国家資格キャリアコンサルタント、文部科学省「留学生学習開発財団 認定プロフェッショナルコーチ」。</p>	<p>オンライン</p> <p>垣内 啓江</p> <p>国家資格キャリアコンサルタント、JCDAキャリア・デハロップメント・アドバイザー、2級キャリアコンサルティング技能士。</p>	<p>オンライン</p> <p>徳橋 英治</p> <p>JCDAキャリア・デハロップメント・アドバイザー。</p>	<p>対面 オンライン</p> <p>早坂 明美</p> <p>国家資格キャリアコンサルタント、JCDAキャリア・デハロップメント・アドバイザー。</p>
--	--	--	---

- ・協力：特定非営利活動法人日本キャリア開発協会(JCDA)
- ・開催日程：月～金 10:00～20:00(オンライン・対面選択可)
- ・料金：7,700円(税込) / 60分

-2 レジリエンス向上プログラムの企画・開発

大きな変化に向き合い、周囲と協力しながら課題を解決して前に進むための「学ぶ場」の提供を目指しています。東日本大震災を契機に、KK²レジリエンス人材育成トレーナーである鎌田修広氏(MOU締結団体 株式会社タフ・ジャパン代表)のご協力のもと、平成25(2013)年より定期的にプログラムを開催してきました。令和7年度は、レジリエンスプログラムの新シリーズとして、鎌田氏をモデレータに迎え、多様な分野で活躍する方々から学ぶ「レジリエンス道場」を2回開催しました。

【令和7年度開催実績】

- ・11月7日開催：「伝説の元消防長から学ぶ組織のV字回復力～渋川消防の挑戦と軌跡～」
- ゲスト：青山 省三氏(群馬県渋川広域消防本部 元消防長)

全国から消防関係者の視察が殺到する群馬県渋川市の渋川広域消防本部。「思考停止状態」から「自ら考え行動する」



最強組織へと大転換を成し遂げました。その中心にいた伝説の元消防長・青山 省三氏をゲストにお迎えし、逆境を力に変える「V字回復力」をお話いただきました。

- ・令和8年2月27日開催：「日本一の『川崎市・菅町会』、みんなが主役のまちづくり ～8000世帯の命を守る防災力！～」

ゲスト：濃沼 健夫氏(川崎市多摩区 菅町会会長)



「変化にしなやかに対応する力」まさにレジリエンスを備えた川崎市菅町会。「顔を知らない近所の人は救えない」と語る、菅町会会長・濃沼 健夫氏をゲストにお迎えし、高齢化による活動力低下や世代間ギャップ、大規模組織ならではの資金面の課題をお話いただきました。

【参加実績】会場37名、オンライン46名に加え、動画視聴者数は1,563回でした。

レジリエンス道場	開催日	会場参加者	ライブ配信	内訳メンバー	内訳Web会員	動画視聴者数	合計
第1回	2025/11/7	17名	26名	15名	28名	1,434回	1,451名
第2回	2026/2/27	20名	20名	13名	27名	129回	169名
合計	—	37名	46名	28名	55名	1,563回	1,620名

-3 コンピテンシー・チェックの提供(Webセルフチェック)

変化にしなやかに対応するためには、まず自身の現状や特性を客観的に把握することが不可欠です。KK²では、自身の強みや弱み、行動特性を可視化する各種セルフチェックを開発・提供しています。令和7年度も、自らの課題に気づき、次の学びへと踏み出すきっかけづくりとして継続的に運用しました。

①「コンピテンシー・チェック～「Feel」「Think」「Act」あなたのコンピテンシーをチェック～」の提供

社会で活躍する人に共通する「しごと力」の基盤となる「コンピテンシー(Feel：人間関係力、Think：問題解決力、Act：行動力)」を理解し、自身の学習課題を明らかにするWebプログラムです。Web会員登録により無料で利用可能です。

KK²コンピテンシー9項目に関するケーススタディ(ドラマ)を視聴し、自身の考えや行動を入力した後、模範回答と照らし合わせてセルフチェックを行うことで、自身に不足している要素への「気づき」を促します。

令和7年度は41名(利用回数634回)の方にご利用いただきました。

②「話カコミュニケーションチェック(WCC)」の提供

MOU締結団体である一般社団法人話カ総合研究所の協力のもと開発し新規公開しました(令和7年8月28日)。「話す力」「聴く力」を体系的に学び育てる「話カ理論」に基づいて開発し、「話す内容」だけでなく、「どのように伝えるか」「相手との関係の中でどう関わるか」など、実践的なコミュニケーション力を多面的に捉える総合的なプログラムです。令和7年度は、3つのコミュニティにおいて延べ267名が受講しました。

・協力：一般社団法人話カ総合研究所

③「デジタル活用カチェック(DKC)」・「デジタルしごとカチェック(DSC)」の提供

6つのカテゴリーからなるセルフチェックを通じ、自身のスキルレベルを把握するとともに、結果に応じた推奨教材で自学自習できるプログラムです。

・「デジタル活用カチェック(DKC)」

基礎的知見からリスク管理まで、デジタル社会への適応力を測定します。

・「デジタルしごとカチェック(DSC)」

データ活用やリモートワーク力など、実務に直結するデジタル能力を測定します。

これまでの利用実績は、「デジタル活用カチェック(DKC)」は5つのコミュニティーで436名(令和7年度：21名)、「デジタルしごとカチェック(DSC)」は3つのコミュニティーで126名(令和7年度：10名)の方に利用していただきました。

-4 「霞が関坐禅会～自分自身と向き合ってみよう～」企画・開催

「エキスパート・スタジオ」ゲストの柴田文啓住職とご縁をきっかけに、臨済宗妙心寺派東京禅センターの協力のもと、法話と坐禅をセットにした「霞が関坐禅会」を開催しています。初心者向けの解説や椅子坐禅も用意しており、多忙なビジネスパーソンが仕事帰りに自身と向き合い、リフレッシュできる場として活用されています。また、ビジネス経験を経て僧侶となられた講師による法話は、悩み解消のヒントになると好評です。

協力：臨済宗妙心寺派 東京禅センター



【令和7年度開催実績】

第十九回(令和7年6月12日開催)

テーマ：「臨在」の意味-青山元不動 白雲自去来-

講師：太田 宗誠氏(臨済宗妙心寺派 宗門活性化推進局)

第二十回(令和7年11月13日開催)

テーマ：「滅文字 滅観念」-不立文字-

講師：太田 宗誠氏(臨済宗妙心寺派 宗門活性化推進局)

第二十一回(令和8年2月5日開催)

テーマ：「滅感覚主体」

講師：太田 宗誠氏(臨済宗妙心寺派 宗門活性化推進局)

【参加実績】

会場40名に加え、動画視聴者数は273回でした。

霞が関坐禅会	開催日	会場参加者	内訳メンバー	内訳Web会員	動画視聴者数	合計
第十九回	2025/6/12	16名	3名	13名	109回	125名
第二十回	2025/11/13	11名	5名	6名	85回	96名
第二十一回	2026/2/5	13名	2名	11名	79回	92名
合計	—	40名	10名	30名	273回	313名

-5 「霞が関寄席」企画・開催

仕事帰りに気軽に古典落語を楽しみ、笑いを通じてリフレッシュできる場を提供しています。令和7年度も金原亭一門の協力のもと、会場とライブ配信のハイブリッド形式で開催しました。なお、9月5日に開催したチャリティ寄席の収益の一部(133,000円)については、「デジタル公民館@支援事業」への寄付として受領しました。

【令和7年度開催実績】

5月9日：五月霞が関寄席「小馬生・駒与志二人会」

出演：金原亭 小馬生氏、金原亭 駒与志氏



9月5日：チャリティー霞が関寄席「金原亭駒与志独演会～江戸の酷暑に、べらぼうめ～」

出演：金原亭 駒与志氏

助演：金原亭 馬太郎氏 / ゲスト：佐々木 亜希子氏(活動弁士)

12月5日：十二月霞が関「小馬生・駒与志二人会」

出演：金原亭 小馬生氏、金原亭 駒与志氏

【参加実績】

会場287名、オンライン104名に加え、動画視聴者数は375回でした。

霞が関寄席	開催日	会場参加者	ライブ参加者	内訳メンバー	内訳Web会員	内訳同伴申込	動画視聴者数	合計
五月寄席	5/9	100名	34名	50名	59名	25名	130回	264名
チャリティー	9/5	88名	42名	45名	64名	21名	81回	211名
十二月寄席	12/5	99名	28名	31名	69名	27名	164回	291名
合計	-	287名	104名	126名	192名	73名	375回	766名

(5) デジタル化支援業務

KK²では地域や組織・団体のデジタル化の支援を行っています。Webサイトでの情報発信やオンライン講義の実施などニーズに合わせて対応をしています。

-1 デジタル公民館@支援事業の推進～まっさき・やねだん～

デジタル公民館@活動の一環として、地域におけるデジタルデバイドの解消や、地域の魅力を発信する活動への支援を行いました。

①高齢者のスマートフォン活用に役立つ動画制作『スマホでひらく“新たな人生の扉”』

高齢者がスマートフォン活用への一歩を踏み出すための応援動画を制作しました(令和7年5月20日公開/5分12秒/制作協力：株式会社メディアリンク)。多くの高齢者にとって、スマートフォンの具体的なメリットが十分に伝わっていない現状を踏まえ、家族とのビデオ通



話、翻訳機能、画像検索、ネットでの買い物など生活の質(QOL)を高める具体的な活用シーンを紹介しています。本動画を通じ、高齢者に「自分にもできそう」という気づきを与え、デジタル活用への動機付けを図ることを目的としています。動画視聴者数は266回でした。

②「デジタル公民館まっさき」活動（岩手県大船渡市末崎地区）

東日本大震災を契機に、末崎まちづくり協議会(令和7年4月、末崎地区公民館より名称変更)を中心とした地域の方々と交流を継続しています。これまでに「PCスマホよろず相談教室」の開催支援や、復興に取り組む地域の声を記録したアーカイブ動画の公開などを行ってきました。

令和7年度は末崎まちづくり協議会の職員の方が更新している「[まっさきWebサイト](#)」の運用支援およびサーバ運用を継続して実施しました。

また、10月18日、19日に末崎まちづくり協議会(ふるさとセンター)で開催されたまっさき町民文化祭にAVCC職員からボランティアを募り「[AI体験コーナー](#)」の出展を行いました。AIを子どもから高齢の方までどなたでも気軽に体験していただくことを目的とし、2日間の活動を通じて、合計27組、延べ32名にご参加いただきました。



③「デジタル公民館やねだん」活動（鹿児島県鹿屋市串良町柳谷集落）

行政に頼らず自律したむらづくりを行う「やねだん」に、Webサイトの運営やインフラ整備(Wi-Fi、TV会議機器)などのデジタル化支援を継続しています。

令和7年度は豊重哲郎館長が塾長を務める「やねだん故郷創世塾」(年2回開催)にて、KK²代表の久保田了司(第11期卒業生)が現地で講義を行いました。講義動画はKK²Webで公開しています。

- ・「第37回やねだん故郷創世塾」(5月10日～13日開催)
5月11日(土)「[共に考え、共に学び、共に担う社会へ](#)」
やねだん会場参加者：24名
- ・「第38回やねだん故郷創世塾」(11月7日～11月9日開催)
11月8日(土)
「[人に寄り添うー生成AIでひらく住民サービスとケア](#)」
やねだん会場参加者：30名



また、Webサイト「やねだん」の更新・運営業務に加え、卒業生の情報共有の場であるメーリングリストの管理業務も継続して行いました(登録者数221名/令和8年3月末時点)。

④『人生100年時代に備える安心ガイド 医療・介護・終活』公開協力(流山高齢者安心ネット発行)

MOU締結団体である流山高齢者安心ネット発行の『人生100年時代に備える安心ガイド 医療・介護・終活』(PDF/59ページ)をKK²特集プログラムとして8月7日にWeb公開しました。本ガイドは、流山市周辺の実事例を収集し、相談先やサポート体制、直面した困難等をアーカイブしたものです。より多くの方々に役立ててほしいというご希望を受けて、協力させていただきました。



-2 組織・団体のWebサイト運用支援

各種団体のWebサイト運用支援を継続して実施しました。令和7年度上期の主な実績は以下の通りです。

- ・一般財団法人警察大学校校友会：Webサイト更新業務
- ・全国重症心身障害児(者)を守る会：Webサイト更新支援、サーバ管理業務

(6) 事業運営

KK²事業の持続可能な運営を目指し、各ステークホルダーおよびメンバーとの関係強化、加入拡大、外部への情報発信強化を推進しました。

-1 文部科学省、霞が関7号館PFI株式会社との連携

KK²が入居する霞が関コモンゲートの運営会社である霞が関7号館PFI株式会社(代表：東京建物株式会社/令和4年12月より)を経由し、文部科学省へKK²事業報告を行っています。また、事業報告および相互連携について検討する共有会議を年2回実施しており、文部科学省、東京建物株式会社が参加しています。令和7年度は、令和6年度報告を7月18日に開催、令和7年度上期報告を12月17日に開催しました。

-2 地域活動(千代田区霞が関)

①大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定(千代田区)

AVCCは千代田区と「大規模災害時における帰宅困難者等受入に関する協定」(平成27(2015)年2月締結)を結んでおり、発災時には「エキスパート倶楽部」および「スタジオ」にて帰宅困難者の一時

受け入れを行います。令和7年度は、千代田区防災無線訓練(月1回)への参加に加え、9月に備蓄品の点検を実施しました。また、東京都の「帰宅困難者対策オペレーションシステム(キタコンDX)」の正式運用開始(令和7年3月)に伴い、7月および8月に「一時滞在施設向け操作研修会」へ参加しました。3月には東京都帰宅困難者対策フォーラムへ参加しました。

②霞が関三丁目町内会活動への参加

企業町内会「霞が関三丁目町会」に加入し、千代田区霞が関のデジタル公民館®として、地域企業の従業員間交流に協力しています。令和7年度上期は4月の「観桜会」に参加し、会員との交流を深めました。下期は10月の「観楓会」、1月の「新年祭」への参加を行いました。

-3 情報発信

①文部科学省発行「マナビィ・メールマガジン」定期寄稿

文部科学省総合教育政策局地域学習推進課が発行する「マナビィ・メールマガジン」(毎月8日・24日発行)において、令和2年度よりKK²事業紹介を寄稿しています。令和7年度は全22回の掲載を行い、そのうち20回が「読まれた記事ランキング」2位以内に入っており、読者の学びの場として活用されています。

令和7年度マナビィ・メルマガ寄稿タイトル一覧

配信日	掲載号	KK ² 記事タイトル	読まれた記事
令和7年4月8日	330号	社会の変化を会計で読み解く～どう働き、どう生きるか～	—
4月24日	331号	障がい者と共に働く共生社会「量から質へ」	1位
5月24日	332号	「スマホでひらく“新たな人生の扉”」	1位
6月8日	333号	「これからの社会と私たちの役割」講師 元連合会長・古賀伸明さん	1位
6月24日	334号	トップショコラティエが語る「QUON CHOCOLATE」の魅力～チョコレートの枠を超えて社会を変える～	2位
7月8日	335号	「第二の人生僧侶」による法話と坐禅～第十九回 霞が関坐禅会～	2位
7月24日	336号	「帰宅困難者問題を考える」～いざその時、命を守る行動ができるように～	2位
8月8日	337号	「アサーション」で築く素敵な人間関係～わたしもOK あなたもOK のコミュニケーション～	2位

8月24日	338号	『人生100年時代に備える安心ガイド 医療・介護・終活』を公開しました	1位
9月8日	339号	話力コミュニケーションチェック ～あなたのコミュニケーション力をセルフチェック！～	1位
9月24日	340号	介護離職しない・させない！～ビジネスパーソンが知っておきたい『親の介護』のこと～	1位
10月8日	341号	おすすめ講座「大丈夫？あなたのことばづかい」	1位
10月24日	342号	スポーツの力で ころを育てる ～沖縄大学准教授/プロゴルファー 石原端子さん～	—
11月8日	343号	5分でわかる！スマートフォンのカメラ活用術 写真を撮ってみよう！	2位
11月24日	344号	伝説の元消防長から学ぶ組織のV字回復力 ～渋川消防の挑戦と軌跡～	1位
12月8日	345号	今こそ挑戦したい「Python（パイソン）基礎講座」 ～AIチャットによるサポート付きで、未経験でも安心～	1位
12月24日	346号	落語の舞台から見た法律 ～落語で楽しく学ぶ法律入門講座～	1位
1月24日	347号	5分でわかる！スマートフォンのカメラ活用術 「動画撮影にチャレンジ！」	1位
令和8年2月8日	348号	会議の能率アップ -しごと力を高めるファシリテーションの極意-	1位
2月24日	349号	コミュニケーションの理想と現場のリアル ～アサーションで変わる！～	1位
3月8日	350号	できていますか？信頼される職場づくりのための「報告」～ 情報セキュリティ事故が起きても慌てないために～	1位
3月24日	351号	日本一の川崎市・菅町会、みんなが主役のまちづくり ～8000世帯の命を守る防災力！～	2位

②公式SNSの発信

KK2Webサイト未訪問層や非認知層へのアプローチとして、各種公式SNS(Facebook、X、Instagram、YouTube)での情報発信を継続し、認知拡大を図りました。運用にあたってはKK2SNSポリシーを順守しています。

公式Facebook	https://www.facebook.com/KK2kasumigaseki/
公式X	https://x.com/KK2Kasumigaseki
公式Instagram	https://www.instagram.com/kk2kasumigaseki/
公式YouTubeチャンネル	https://www.youtube.com/@KK2

-4 会員

①協賛メンバー

令和7年度の協賛メンバー数は27団体です。

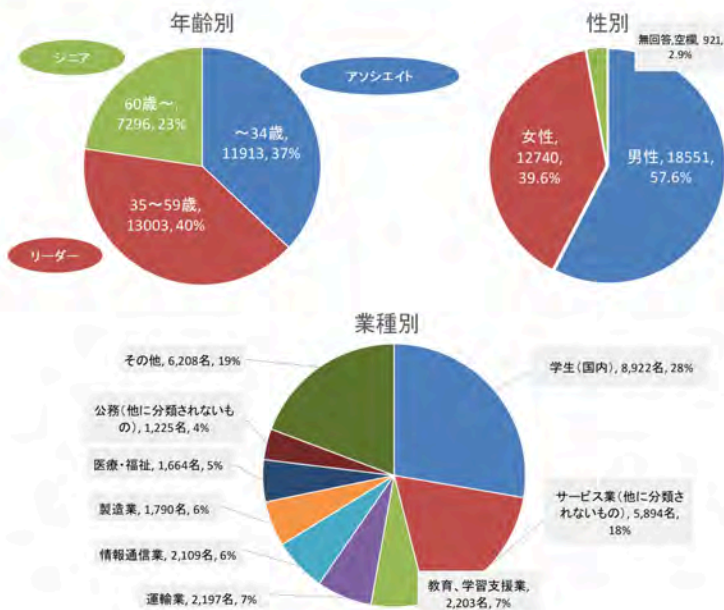
(内訳：民間企業・各種団体 24、NPO法人 2、大学・専門学校 1)

合計	民間企業・各種団体	NPO法人	大学・専門学校
27	24	2	1

②KK²Web会員(無料)

令和7年度末時点のWeb会員登録者数は32,212名となり、令和6年度末比で2,952名増加しました。年代別構成比は、アソシエイト(～34歳)37%、リーダー(35歳～59歳)40%、シニア(60歳～)23%です。業種別では学生が28%と最も高く、大学講義におけるDPP活用が主な増加要因となっています。

令和7年度 Web会員属性(32,212名)



-5 KK²自主企画プログラム等開催数と延べ参加者数

令和7年度は、RA、LMS、LSSのご利用を含めて、自主企画プログラム開催等合計410件実施いたしました。延べ参加者数はKK²会場が552名、オンラインでの参加が243名でした。また動画視聴及びWebでのサービスを利用した方は34,685名、合計35,480名の方に学びの機会を提供いたしました。

R7年度 プログラム内容	実施回数 および コンテンツ数	会場 参加者	オンライン 参加者	メンバー	属性内訳 Web会員	一般	動画視聴者数/ Web実施者	合計
Advanced Valuable Communicationの開催								
レスポンスアナライザ (RA)	309						25,591	25,591
KK ² ラーニングマネジメントシステム(LMS)	5						4,864	4,864
「デジタル公民館まっさき」活動	1	32					-	32
やねだん故郷創世塾	2	54					211	265
スマホでひらく「新たな人生の扉」	1						266	266
Python 基礎講座	14						57	57
Python IoT 応用講座	21						10	10
Python ビジネス講座	3						37	37
話コミュニケーションチェック(WCC)	3						267	267
デジタル活用力チェック(DKC)	5						21	21
デジタルしごと力チェック(DSC)	3						10	10
時代の変化と向き合い考え学ぶプログラムの提供								
デジタルTERA小屋～エキスパートと学ぶ～	2	43	30	30	36	7	536	609
KK ² キャリア相談室	6							6
しごと方向上ライブラリ	2						354	354
コンピテンシー・チェック	24						41	41
産が関坐禅会～自分自身と向き合ってみよう～	3	40		10	30		273	313
産が関寄席	3	287	104	126	192	73	375	766
レジュエンス道場	2	37	46	28	55	0	1,563	1,646
KK²事業運営								
AVCC&KK ² 事業説明会	1	59	63	67	55		209	331
合計	410	552	243	261	368	80	34,685	35,480

II イノベーション企画部

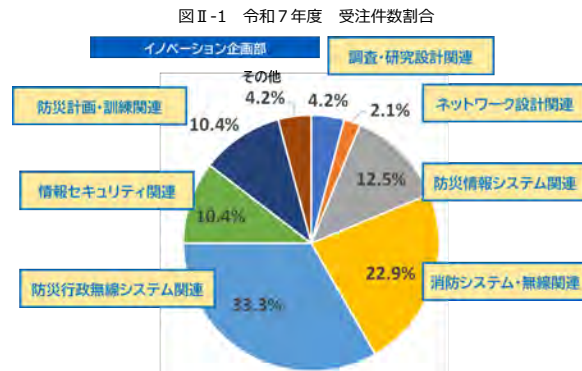
【重点事業】

(1) 「世の中のためになる仕事」の推進

イノベーション企画部では、その業務の多くを地方自治体から請け負っています。また、そのほとんどが防災分野に係わる業務です。

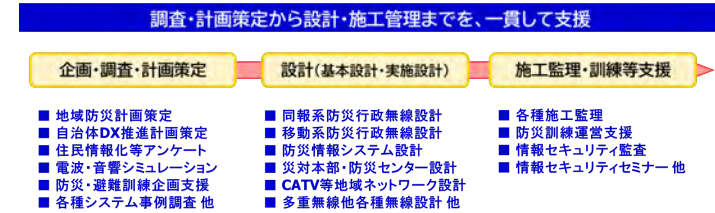
災害大国日本において、自治体と共に防災・減災に携わる業務を担うことは、住民の生命や財産の保護を担うことであり、責任が重大である一方、非常にやりがいがある仕事と捉えています。

実際、令和7年度は、約50件の受注業務のうち、情報セキュリティ関連以外の業務は、消防・防災に関連する業務でした。(下図参照)



また、令和6年度からは、地域防災計画や避難計画策定、自治体等における避難訓令・防災訓練等の「防災対策支援業務」を行うようになったため、それまでの「防災情報システムトータルコンサルタント」から、「防災情報化支援トータルコンサルタント」として、自治体の防災計画の立案から災害時運用の訓練支援を含めた防災業務全般においてトータルな支援を行っています。昨年度も、首都圏を中心に7件の計画策定や避難訓練の支援業務を実施しました。

表II-1 防災情報化支援トータルコンサルタントイメージ



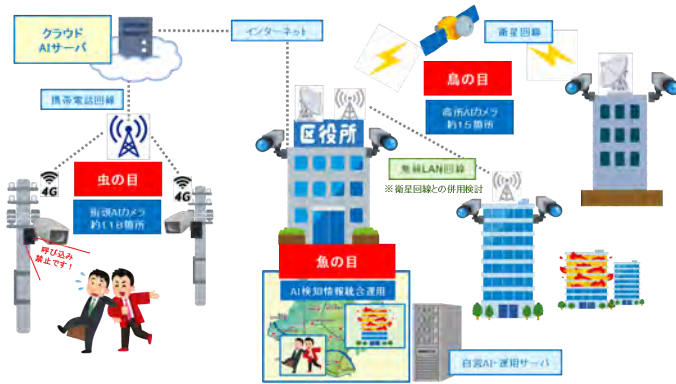
(2) 新たな取り組みへの「挑戦」

令和7年度は重点事業に新規事業への挑戦を掲げていました。防災分野においては、前項で報告している通り「防災情報化支援トータルコンサルタント」としての取り組みを継続して行なうとともに、新技術への挑戦を令和7年度の目標とし、防災DXとAIの融合における「防災AX」への取り組みの第一歩を進めました。

具体的には、自治体行政区内に複数の高所カメラと防犯カメラを設置し、生成AIによる異常検知や発令判断支援を行うシステムの設計になります。

高所カメラから区内全体を俯瞰する「鳥の目」、防犯カメラによる駅前や高所カメラでは届かないエリアをカバーする「虫の目」、そして、火災をいち早く発見するための煙検知や河川の急な水位上昇を検知するAIを使用した先進技術の「魚の目」により各システムが構成されています。昨年度は、自治体本庁舎のみの設計でしたが、今年度はタワーマンション屋上への高所カメラの設置に向けた調査・設計業務を行います。

図 II-2 AIカメラによる防災AXイメージ図



【各事業別報告】

以下、防災各分野における個別事業の報告とします。

防災行政無線分野における設計、施工監理業務は例年通り多いですが、現在全国の消防本部設備(指令台システムや消防無線等)の更新の時期を迎えており、設計及び施工監理業務が増えています。

また、令和6年度開所した東北事業所(宮城県仙台市)では、仙台市新庁舎建設に伴う新災害情報センターの設計業者の他、山形市にて調査、計画作成支援業務で2件、青森県むつ市で消防無線の設計業務を受注することができました。

(1) 防災行政無線システム関連(設計/施工監理)

-1 設計業務

令和7年度は設計業務は例年に比べ少なくなっています。設計業務の受注は、翌年度の施工監理業務に繋がるため、一般競争入札のみならず、指名入札に参加するためにも営業活動が必要です。

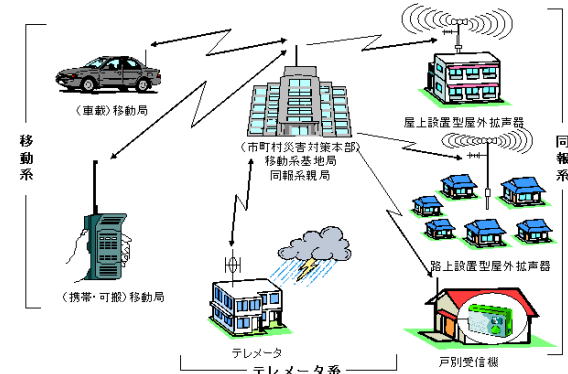
また、近年、本業務においてもプロポーザル方式による業者選定が増えてきています。従来の自営防災行政無線だけでなく、携帯電話網を活用したIP方式との連携を要求する自治体も増えてきているため、賛助会との連携含め、最新システムの情報や活用手段等についての情報収集は欠かせないものとなってきています。

【実施自治体】

- ①長島町防災行政無線(同報系)再整備事業実施設計業務委託
- ②国分寺市防災行政無線(同報系)設備デジタル化整備工事実施設計業務委託

③あきる野市防災行政無線システム西戸倉子局移設工事設計業務委託

図 II-3 同報系防災行政無線システム構成イメージ図



(出典：総務省ホームページ)

-2 施工監理

施工監理業務は設計業務に比べ、比較的多く受注出来ています。複数年契約の施工監理も多いため、安定した受注件数を得るためにも設計業務の受注を増やすことが必要です。

【実施自治体】

- ①鹿追町防災行政無線施設整備工事監理業務委託
- ②松野町防災情報等伝達設備更新工事監理業務
- ③いちき串木野市防災行政無線再整備事業監理業務委託
- ④美郷町防災行政無線(同報系)再整備工事監理委託業務
- ⑤波佐見町防災行政無線再整備工事監理業務
- ⑥周防大島町防災行政無線(同報系)第2期再整備工事監理業務
- ⑦三島市防災行政無線(同報系)デジタル化再整備工事施工監理業務委託
- ⑧上市町防災行政無線更新工事監理業務委託
- ⑨和泊町防災行政無線更新工事監理業務委託
- ⑩龍郷町防災行政無線更新工事監理業務委託
- ⑪浜田市次期防災情報システム整備工事監理業務
- ⑫知名町防災行政無線更新工事施工監理業務委託
- ⑬上天草市防災情報集約システム拡充外整備工事監理業務委託
- ⑭みやこ町防災行政無線(豊津地区)再整備工事監理業務委託
- ⑮府中市防災行政無線固定系整備工事に伴う監理業務委託

(4) 防災計画・訓練関連

令和6年度からの開始から、令和7年度も安定した受注が行えています。ただし、経験を持つ個人に頼る業務が多いため、傷病時等も想定したバックアップ体制の整備が必要です。

【実施自治体】

- ①葛飾区医療救護訓練支援委託
- ②葛飾区保育施設等業務継続計画(BCP)等検証訓練の企画・実施委託
- ③葛飾区災害拠点病院事業継続計画(BCP)風水害版検証訓練支援委託
- ④葛飾区福祉避難所整備方針策定支援業務委託
- ⑤港区各課災害時個別マニュアルの作成に係るワークショップ等支援業務委託
- ⑥埼玉県災害時要配慮者避難体制整備サポート事業業務委託
- ⑦山形市避難所等環境整備計画策定業務



(出典：AVCCホームページ)

(5) 調査・研究関連

防災計画等の策定業務と同様、本業務においても対応できる人員が少ないため、業務教育及び体制整備が必要となります。今年度以降、複数名での体制を整備し、調査等業務等の指導を実施します。

【実施自治体】

- ①加須市新たな災害時情報伝達手段の整備方式検討委託
- ②山形市防災情報DX整備計画策定業務

(6) ネットワーク設計関連

防災・消防業務のほか、AVCCでは自治体に関連するネットワークに関連する設計・支援業務を行っています。令和7年度は、令和6年度に引き続き、ネットワーク構築後の運用・保守に関する支援を行いました。東京都では、ネットワークの改修・保守に関する事業者からの見積内容の精査などの支援を行いました。

【実施自治体】

- ①東京都島しょ情報通信基盤整備、保守及び運用事業支援委託

(7) 情報セキュリティ関連

AVCCでは以前より地域・社会サービスのデジタル化を支援する事を目的とし、自治体や関連団体・学校向けに個人情報保護、情報セキュリティ監査等の情報セキュリティコンサルティング業務を実施しています。特に住民データや特定個人情報(マイナンバー)等の機密情報の取り扱いには最大限の注意を払う必要があり、組織内で機密情報を維持・管理する仕組みが実態に沿って適切に運用されているか監査・点検業務を行いました。また、監査・点検業務だけではなく、情報セキュリティ・個人情報保護に関する研修や職員に対する意識調査等を行い、組織内での意識向上、継続的な取組のための支援を行いました。そのほか、官公庁外郭団体や民間企業に対し、ISMS(ISO27001)認証取得後の運用に関する支援を行いました。

監査・点検結果については改善計画を策定・実施していただくことで、自治体の重要資産の取扱いに関する運用実態の向上をもたらしています。令和7年度は、主に下記自治体・団体において支援を行いました。

【実施自治体】

- ①いすみ市保有個人情報及び特定個人情報点検監査支援業務
- ②江戸川区特定個人情報の管理状況に係る監査等業務委託
- ③笛吹市情報セキュリティ監査業
- ④山梨県国民健康保険団体連合会ISO27001認証維持及び移行審査に伴うコンサルタント業務
- ⑤長野県国民健康保険団体連合会ISO27001認証取得後の運用支援に係る業務委託

情報セキュリティとは

◆ 情報セキュリティとは、

情報の**機密性**、**完全性**及び**可用性**を維持すること。

JIS Q 27000 : 2019

機密性

- ・許可された者だけが情報にアクセスできること
- ・許可されていない者に対して情報を開示せず、使用させないこと

完全性

- ・情報及び処理方法が正確かつ完全であること
- ・認可され登録・更新された情報が維持され偽造・改ざんのないこと

可用性

- ・必要な時に確実にアクセスできること
- ・認可された者が要求したときに、アクセス及び使用できること

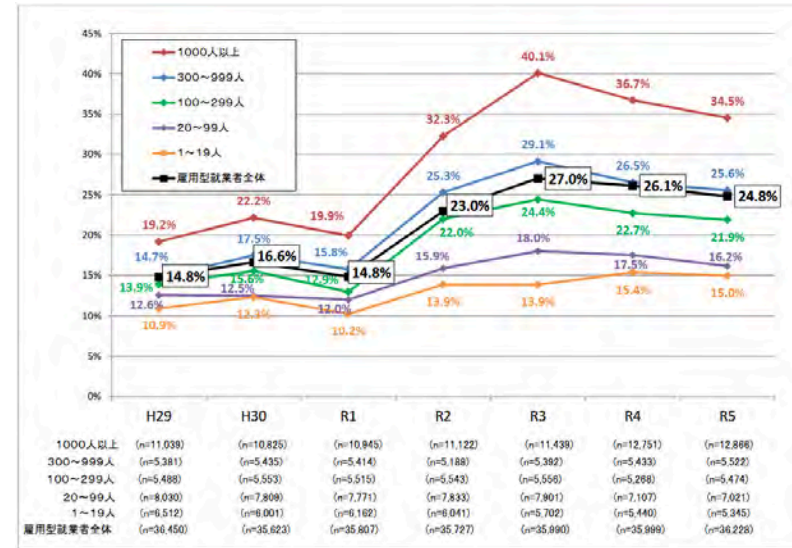
(職員向け研修テキストより抜粋)

Ⅲ デジタルイノベーション部

(1) 法人向けデジタル化支援事業

国土交通省が令和6年3月にまとめた、「2023年度テレワーク人口実態調査_企業規模別テレワーカーの割合」によると、令和5年のテレワーク実施率は従業員1000人以上の企業では34.5%に対し、従業員100人～299人の企業で21.9%、20人～99人の企業では16.2%でした。

図 Ⅲ-1 令和5年度テレワーク人口実態調査 - 調査結果(概要)、企業規模別テレワーカーの割合



【H29-R5】出典：国土交通省(令和6年3月)

全体として、テレワークの実施率は若干減少傾向にあるものの、企業規模による差は依然として大きな開きがあるのが現状です。特に、大企業と中小零細企業の間では、デジタル化の進捗に大きな隔たりがあることが浮き彫りとなっています。

テレワーク制度を効果的に導入するためには、企業側と従業員側、双方の環境整備が不可欠です。企業側では、テレワークに対応した社内システムや勤怠管理システムのデジタル化を進める必要があります。一方、従業員側では、安定したインターネット環境を整えることが求められます。これらの環境整備が、テレワーク導入の成否を左右する重要な要因です。

また、令和3年度以降でテレワーク率が減少している背景には、気軽な相談・報告が困難、画面を通じた情報のみによるコミュニケーション不足や、部下の勤怠管理が困難な事を不便な点としてあげられ

ています。デジタル一辺倒では人と人とのつながりが疎になることもある為、リアルを活かした仕組みが必要です。

AVCCではAdvanced Valuable Communicationなデジタル社会の実現に向けて、テレワークを始めとしたデジタル化が遅れている中小零細企業が個別に抱える環境や課題に対し、調査・設計・構築業務・運用保守・問い合わせ対応といった、トータルコンサルティングとしての活動を行いました。具体的には今年度は、サインージシステムを導入したユーザーの放映用動画短編集、企業向けの生成AI導入の為の支援を行いました。

図 III-2 「デジタル支援コンサルティングイメージ」

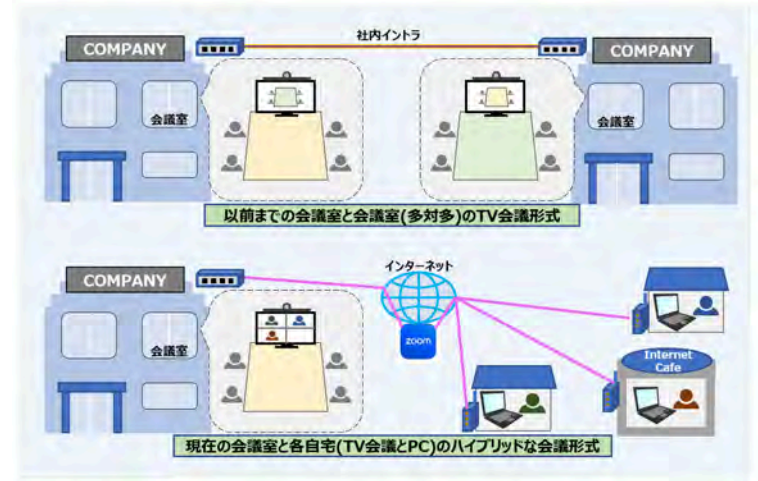


(2) TV会議システム/Web会議システムの構築、運用、保守管理業務

コロナ禍以降では自宅のパソコンやスマートフォンで会議に参加するリモート参加が当たり前の世の中になり、会社の会議室と自宅参加者のそれぞれがWeb会議に接続し、リアル集合型とリモート参加型のハイブリッドな会議形式に変容しました。しかしながら、その分会議室側では、AVシステムとWebシステムの考慮が必要となり操作が煩雑化しました。AVCCでは Valuableなコミュニケーションとアクセシビリティなシステムの実現の為、既存の会議室設備を利用したリアル参加会議とリモート参加のハイブリッドなWeb会議やTV会議システムの最適な設計・支援・更改・保守管理業務を行います。

また、Web会議やTV会議システムで利用するネットワークの最適な設計・支援・更改・保守管理業務を行い、TV会議・Web会議システムを含め一気通貫で最適な環境の整備を支援しました。

図 III-3 会議形式の変化



(3) 各種運営支援業務(映像情報システムの構築、運用、保守管理業務)

公共施設、学校、企業等に設置されている映像情報システムの保守管理業務や運用業務の支援を行っております。コロナ禍以降になりつつある、授業・講演のオンライン配信や双方向映像音声通話に対応する為、Valuableでアクセシビリティなシステムリニューアルの設計・ご提案を行い、Society5.0に則した新たな映像情報システムの構築を行い、また、常に進化し続ける最新AV機器の技術力を習得し、多様化するサポートに対応しました。

図 IV-4 オンライン配信可能な映像情報システムイメージ



- 1 大手生命保険会社
- 2 大手生命保険会社総合研修所
- 3 千葉県松戸市教育委員会
- 4 公益財団法人松戸市文化振興財団
- 5 学校法人昭和女子大学
- 6 学校法人愛知大学東京霞が関オフィス
- 7 日本アムウェイ合同会社
- 8 東京美装興業株式会社
- 9 三機工業株式会社

(4) 自治体・地方公共団体向けAVシステムの構築、運用、保守管理業務

AVCCは創業当初より視聴覚AV設備の普及に務めており、AVシステムの設備工事は長年の経験・ノウハウが活かせる最も得意な分野の1つです。令和6年度にAVCCでは電気通信工事業で建設業許可を取得しましたので、令和7年度は自治体・地方公共団体が発注する、映像・音響設備に関する工事の入札に参加し、その設計・施工および長期的な維持管理を通じて、自治体・地方公共団体の公共機関の業務効率化と高品質なコミュニケーション基盤の構築に貢献する事業を目指しました。具体的には、内閣府の新庁舎移転に伴うAV設備機器関連事業の一部を落札・構築する事で、寄与しました。

(5) 自治体・地方公共団体向け防災行線無線の保守管理業務

平成23(2011)年に発生しました東日本大震災では、非常用発電機等の一部の防災設備が正常に動作しなかったといった事例が散見しており、利用可能状態を保ち続ける事の重要性を再認識する形となりました。どのような設備も有事の際に利用出来なければ意味がなく、構築して終わらせずに継続的な定期点検・動作確認を行う事が肝要です。

AVCC・メディアリンクでは自治体・地方公共団体が運用する防災行政無線設備の維持・管理に関する入札に参加し、その点検および保守管理業務を通じて、災害時における情報伝達機能の維持・向上に尽力し、安全・安心な地域社会の構築に貢献してまいりました。

IV 教育イノベーション推進部

【重点事業】

(1) 寄り添いベンタ

「寄り添いベンタ」は、家族や訪問看護師・介護士・ボランティアなど寄り添い者が、デジタル弱者となりうる、高齢者や障がい者などの利用者の生活を邪魔することなく、離れていてもそっと繋がっているコミュニケーションの実現を目標としています。

-1 実証実験ver.1.0を終えて

令和6年11月より令和7年9月までの間、試作端末において、技術的な課題や操作性などの改善点を洗い出し、社会実装を実現するべく、「寄り添いベンタ」サービスの実証実験ver.1.0を行いました。

利用者からのオンライン・アンケートの結果、「寄り添いベンタ」は、「安心」「見守り」「健康意識向上」に一定の効果を発揮していることが確認され、「寄り添いベンタ」は、単なる見守り機器に留まらず、生活全体を支える安心基盤として発展し得る可能性があるサービスであることが分かりました。一方で、ライフログデータが他機器と異なることで信頼性の疑問を持たれる場面や、通知頻度が高く必要な情報が埋もれるといった課題も明らかになりました。

また、「寄り添いベンタ」の実験データ(ログデータ)の結果、端末毎の平均稼働率は概ね98%前後で推移し、ライフログの到達時間は中央値で約3秒前後に収束し、通信の揺らぎも少ないことが確認されています。一方で、一部端末の稼働率の低下、ライフログ到達時間が長時間になるなど設置環境や通信機器の影響は推測されますが、「止まらず・つながり・自動更新する」という三要素は概ね達成はできています。しかしながら更なる精度の向上が必要であると確認されました。

-2 実証実験ver.2.0を終えて

実証実験ver.1.0の結果を踏まえて、令和8年2月より令和8年3月までの間、特に「止まらず・つながり・自動更新する」の重要要素となる通信機器(通信モジュール)について着眼し、更なる平均稼働率の向上とライフログの到達時間の短縮を目的で実証実験ver.2.0を行いました。

実証実験ver.1.0では、通信モジュールに「Cat.M1*」を採用していましたが、実証実験ver.2.0では「Cat.1bis*」を採用し実証実験を行っています。

まず、稼働率の観点では、実証実験ver.1.0の結果からバラつきや閾値未達が見られ安定稼働率に若干の課題を残していましたが「Cat.M1」に対し、実証実験ver.2.0で検証した「Cat.1bis」は安定性が向上し、全体として信頼性の高い通信基盤を実現できました。しかし、一方でライフログの到達時間では「Cat.M1」が相対的に短時間で処理出来ているのに対し、「Cat.1bis」は完了するまでに時間を要する傾向にあることが分かりました。

従って、実証実験ver.1.0で使用した「Cat.M1」は「早い不安定」、また、実証実験ver.2.0で使用した「Cat.1bis」は「遅いが安定」という相対する関係にありました。

「止まらず・つながり・自動更新する」というコンセプトに沿って信頼性の高い通信基盤を実現となった場合、「Cat.1bis」モジュールを採用し、現行ソフトウェアのバージョンアップを行いながら、社会実装に向けて取り組んでいきます。

「Cat.M1*」:

低消費電力、低通信量を特徴とし、電池駆動の長期運用に適したIoT向け通信方式。通信速度は控えめだが、広いエリアで安定した接続が可能で見守り機器やセンサー用途に適している。

「Cat.1bis」:

Cat.M1より高速かつ安定した通信が可能なIoT向け通信方式。音声通話や大容量データ通信にも対応しやすく、汎用性が高い一方で、消費電力や通信時間は比較的大きくなる傾向がある。

(2) KK²エデュケーションサービスの提供への技術協力

霞が関ナレッジスクエア(KK²)の令和7年度の重点項目であるKK²Webサイトリニューアル開発を行い、令和7年6月にサイト公開いたしました。

主な、リニューアル内容は、トップページのナビゲーション改善、検索機能の向上、リコメンド機能の強化、レスポンスの最適化による利便性、メンテナンス性の向上などです。

また、教育のデジタルトランスフォーメーション(DX)支援を目的とした「KK²デジタルプレゼンテーションプラットフォーム(DPP)」を引き続き提供しました。

【継続事業】

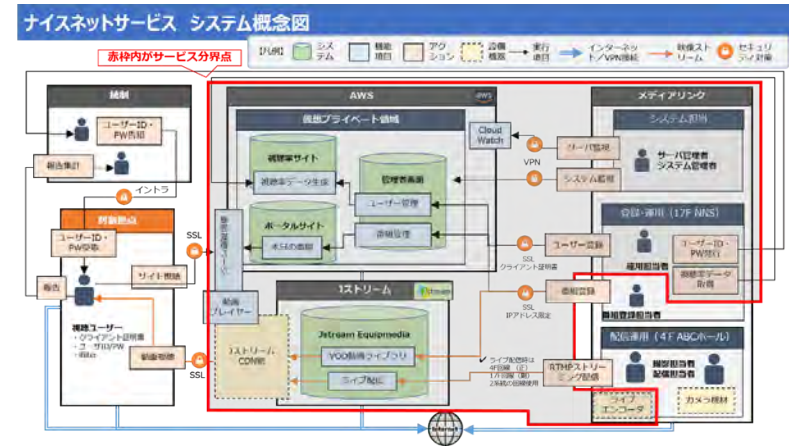
(1) 日本生命保険相互会社 NICE-NETサービスの提供

「NICE-NETサービス」は、株式会社Jストリームが提供する動画配信基盤(Jstream Equipmedia)を利用し、ユーザー管理・コンテンツ管理・視聴履歴管理などの機能をAmazon Web services(AWS)に集約したサービスを引き続き提供しました。

視聴側である営業職員は、日本生命保険相互会社にて用意頂いたインターネット回線(WiFi及びLTE)とタブレット(apple iPad)を大型モニタに投影し、コンテンツ番組一斉視聴と生放送の視聴が行えます。

また、本部からのお知らせ等もサイネージ機能にて表示されます。

図IV-1 NICE-NETサービス システム概念図



「NICE-NETサービス」は、日本生命保険相互会社の営業職員が番組視聴するためのナイスネットポータルサイト、システム管理者と運用管理者が運用管理を行うための管理者画面から構成され、視聴端末にはクライアント証明書及びユーザーID・パスワードの2段階のセキュリティ認証が設定され、信頼性を確保しています。

また、当部署から3名の職員が日本生命保険相互会社丸の内ビル17階に常駐し、ユーザーID管理、住所管理、視聴率データの抽出及び担当部署への連携、ナイスネットポータルサイト・動画配信基盤の監視など日々のサポート業務と、全国2,500余りの拠点を対象にヘルプデスクを設置し、障害ポイントの切り分け業務、復旧業務及び各々の対応窓口への連携など保守・運用を行っています。

V 教育情報サービス部

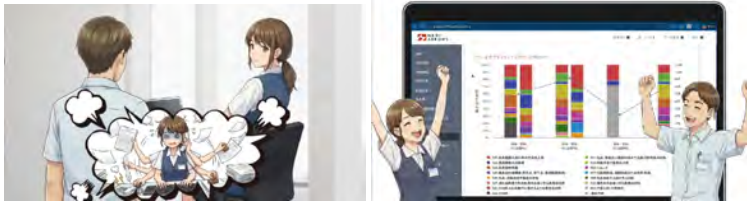
【重点事業】

(1) AI活用への取り組み

AI技術の飛躍的進化を背景に、動画制作の全工程において生成AIを統合的に活用し、業務効率化と表現の幅を広げる取り組みを強化しました。

具体的には、

- ・パンフレットやHP記載の情報を読み込ませ、構成台本の原案の生成。
- ・画像、動画、音楽等、各素材の生成。
- ・テキストの読み上げAIを使用したナレーション生成。
- ・人間が読み上げた音声の性別変換。



様々なAIを業務に取り込むことで時間、労力、費用の効率化を達成しました。

(2) KK2「しごと力向上」の教材開発

「5分でわかる！スマートフォンのカメラ活用術」写真編、動画編 制作。

デジタルデバイドの解消のため、なんとなく撮っている写真や動画をワンランク引き上げるためのテクニックを、写真やイラストで分かりやすく伝えました。スマートフォン活用の入口として親しみやすい作りとなっています。

写真画像、イラスト、アニメーション、ナレーション等、ほぼ全ての素材をAI生成し、本来複数人で時間と費用をかけて制作していたコンテンツを、ディレクター1名で完結させる新しい制作体制を実証、実現しました。



(3) 「健康寿命」延伸の動画コンテンツ制作

リエイブルメント(Reablement)とは、「再びできるようになる」という意味で、高齢者が身体的・心理的な障害を乗り越え、自立した日常生活を取り戻せるよう支援するアプローチ・サービスです。

単に身体機能の回復だけでなく、本人の強みに焦点を当て、対話とコーチングを通じて、自分で課題解決できるセルフマネジメント能力の習得を目指し、短期間かつ集中的に支援し、QOL向上と介護費用の削減効果も期待されています。

身体機能回復、運動機能の低下を予防するための各種トレーニング。

リエイブルメント動画37本を制作しました。



【継続事業】

(1) 日本生命保険相互会社 NICE-NET番組制作

NICE-NETとは日本生命保険相互会社が行うWeb動画配信サービスで、約5万人を対象とした社内教育・情報伝達の為のネットワークの総称です。執行方針指示といった管理者向け番組から、営業職員(トータルパートナー)向け商品説明・好取組事例紹介・コンプライアンス等、視聴対象者毎に必要な情報、価値ある情報を伝える教育番組の制作を行います。最近では、デジタル化する営業ツールの活用方法、デジタルを活用した営業手法といったデジタル活動を幅広い年齢層の営業職員に浸透させる為の教材が求められています。

異動、退職、病気等、様々なリスクを避けるため、修正発生時のコスト、時間の節約のために通年で使用する初期層向けの教育番組において、生身のキャストをAIアバターに置き換える流れが継続しています。現在、女性4名、男性2名のAIアバターが活躍しています。



(2) e-Learning運用支援業務

霞が関ナレッジスクエアが提供するLMSを利用する企業、団体のコンテンツ管理、受講者登録管理等の運用を通じて社内教育を支援しています。併せて、お客様と共に教材開発にも積極的に取り組んでいます。



- ・ビル管理株式会社 約1,500人
- ・不動産関連NPO法人 14人(令和7年度実績)

(3) スタジオ運用

近年、機材のデジタル化が進み、動画制作が手軽になったことで、「少人数対象でも動画教材を作りたい」というお客様が増えています。また、企業等で動画制作を内製化するケースも増加しています。しかし多くの場合、人手不足や動画制作スキルのばらつき、異動等により技術の引き継ぎができない、といった様々な課題を抱えています。こうした課題を解決するため、教育情報サービス部ではスタジオ運用を通じて、お客様の求める動画教材の収録・制作支援を行ってまいります。

また、三番町スタジオの終息に伴い、永田町に新スタジオ移行を検討中です。

(4) 中継・配信業務

大規模イベントは全て対面での開催に戻りましたが、Web会議システムを使ったセミナーは各企業の内製化が進んでいます。とはいえ失敗の許されないwebセミナーイベント等の需要はございますので、教育情報サービス部では、引き続きお客様のご要望(内容・規模・予算)に対応したサービスを提供していきます。



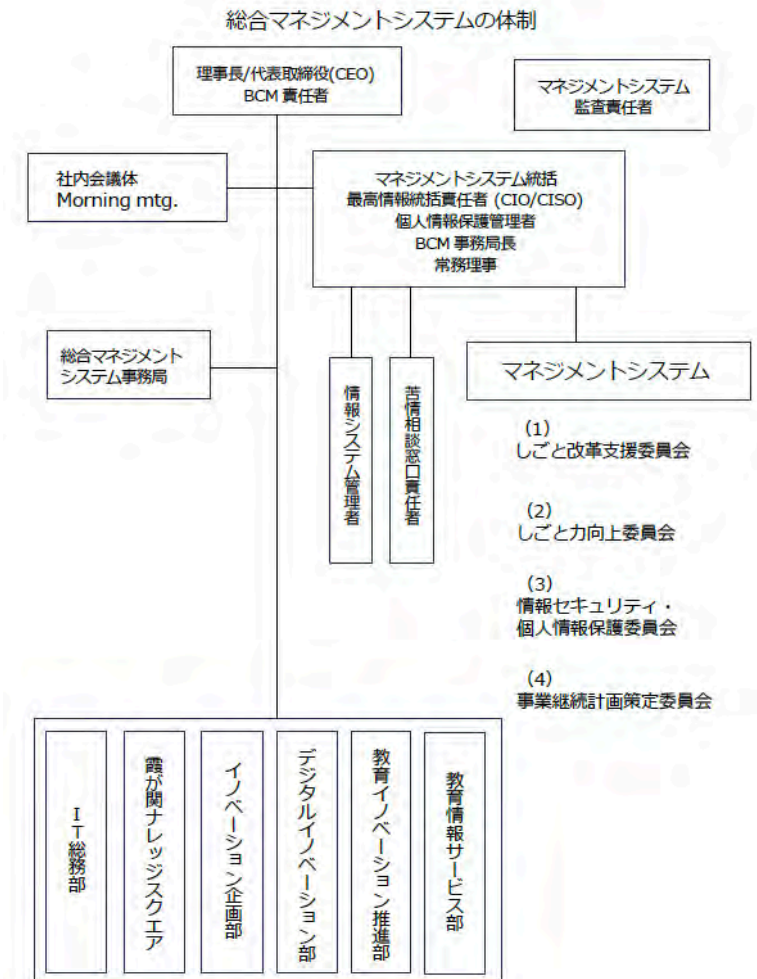
VI 人材育成支援事業

組織内での人材育成事業の運営に課題を抱えている企業・団体様への支援業務を実施しています。令和7年度は、イベント・研修の開催運営、研修施設運営などについて技術、運用管理において支援を行いました。

引き続き組織のAdvanced Valuable Communicationの推進を全面的に支援して参ります。

Ⅶ AVCC組織運営に関する事項

(1) AVCC・メディアリンク マネジメントシステム



円滑に業務を継続していくためには、組織内の重要資産を適切に管理し、守っていくことが必要です。そのために、総合マネジメントシステム体制を継続し、引き続き業務に当たりました。

-1 しごとと改革支援委員会

平成30(2018)年度から続くこの取り組みは、「しごととカシート」による個人の振り返り、「部門しごとと内容シート」による組織目標の共有、部門長との面談での対話へと繋がる、AVCC・メディアリンクにおける「人づくり・組織づくり」の要となる活動のひとつです。令和7年度も引き続き、5月～10月「しごととカシート」の更新および新規作成、6月 部門の業務を見える化する「部門しごととカシート」の更新、7月～10月「部門長面談の実施」、KK?キャリア相談室の利用促進(従業員は年2回まで無料)を行いました。

-2 しごとと力向上委員会

令和7年度より、IT総務部が全体計画を策定し、しごとと力向上委員会が運営をサポートするという形態で研修を実施しました。引き続き、月に1回程度で社内から講師を選抜し、それぞれの得意分野を教授することにより、日々目まぐるしい進化を遂げるIT技術等を従業員全体で習得・スキルアップを図り、組織としてDX推進に務めております。

また、話力総合研究所様にご協力いただき、従業員向けに「ビジネスコミュニケーション力向上～理論と実践「知っている」から「できている」へ～」をテーマに集合研修を実施いたしました。

-3 情報セキュリティ・個人情報保護委員会

①情報資産・個人情報の保護のための活動

令和6年度に引き続き、AVCCが保有する情報資産(個人情報を含む)を維持するための社内活動を実施しました。具体的には、定期的に行っている各部門で実施する情報資産の見直し、リスクアセスメントの継続・見直しに加え、令和7年度度も職員教育、内部監査を実施しました。

職員教育は全従業員向けを7月と1月に実施。その他、新規入職者に対して、社内LMSシステムを活用して実施しました。

令和7年度は、令和6年度末に発生した個人情報の第三者提供に関する事故について、原因究明及び再発防止策を策定し、臨時の従業員教育も実施しました。

②プライバシーマーク、ISMS認証の維持

プライバシーマーク認証については、4月に更新のための現地審査があり、無事更新登録されました。ISMSについては10月に定期審査が行われ、引き続き認証を維持しています。また、都度関連法令の見直し、各部門における情報セキュリティ目標の設定など、日々認証維持のための活動を行っています。

-4 事業継続計画策定委員会

①事業継続計画の見直し

現在策定しているBCP(事業継続計画)について、業務内容、組織体制の変化に合わせて見直しを

行っています(現在も見直し継続中)。

②安否確認訓練の実施

令和7年度も例年に引き続き、年2回(7月、12月)、従業員全体(派遣社員を含む)に対する安否確認訓練を行いました。両回とも規定時間内に全員の安否確認が行えました。

(2) AVCC賛助会

引き続き賛助会員と協力し、社会に貢献する事業を進めております。

令和8年3月31日現在 42団体が会員となっております

(3) AVCC相互協力協定(MOU)締結組織

AVCCと相互協力協定(MOU)を締結している団体とは、KK²プログラムの企画・開発や、AVCCコンサルティング事業の支援、デジタル公民館®活動への協力など、多方面でご協力をいただいています。令和7年度も、相互の事業に有益な活動ができるよう引き続きご協力いただきました(順不同)

相互協力協定(MOU)団体

[一般社団法人 長洞元気村](#)

[社会福祉法人 スマイリング・パーク](#)

[社会福祉法人 むそう](#)

[NPO法人「居場所」創造プロジェクト\(居場所ハウス\)](#)

[やねだん自治公民館](#)

[一般社団法人 話力総合研究所](#)

[株式会社タフ・ジャパン](#)

[株式会社テラユナイテッド](#)

流山高齢者安心ネット

(4) AVCC&KK²事業説明会の開催

AVCC賛助会各社、KK²協賛メンバー、講師、支援団体を対象とした「AVCC&KK²事業説明会」を開催し、当該年度の事業テーマ説明および関連講演を行っています。令和7年度は、5月23日に古賀伸明氏(元連合会長/AVCC理事)を招き [「これからの社会と私たちの役割」](#)と題して開催しました。



【開催実績】

・開催日：5月23日

・参加者：計389名(会場59名、オンライン63名、動画視聴209回)

プログラム	開催日	会場参加者	ライブ参加者	内訳メンバー	内訳Web会員	動画視聴者数	合計
事業説明会	5/23	59	63	67	55	209	331

Ⅷ AVCC・メディアリンクの人財の拡充と育成

AVCC・メディアリンクでは、人財の確保が重要な課題となっています。JD(ジョブディスクリプション：職務記述書)を明示し、多様な人財確保が急がれます。

また、「求める人財像」を明確に定義し、従業員一人ひとりがスキル向上、意識向上に向けて努力することが求められています。

そのためのサポート体制を整えております。

(1) AVCC・メディアリンクが求める人財像

『周りの人のために自分は何ができるかを考え

Human resource who think about what you can do for the people around you,

必要な時は他者の援助を取りつけ

get help from others when you need it,

あらゆる変化にしなやかに対応し

be flexible to all kinds of changes,

自らを常にアップデートし続ける人財

and constantly update yourself』

(2) 公的資格取得支援

現在の公的資格取得支援制度は令和3年版のため、現在の業務および今後の業務を見据えた見直しを継続中です。

(3) 業務に活用できるAIの利用環境の充実を図る (IT総務部 ITチーム)

生成AIの全社的な利活用推進と、安全に利用するための基盤整備を完了しました。

- 「AI利用に関する社内ルール」の策定と周知
社内の状況共有掲示板に「AI利用に関する社内ルール」を掲載し、社員が迷わず安全にAIを活用できる環境を整えました。掲載項目は以下の通りです。
 - ・【AI利用に関する社内ルール】
 - ・【機密情報とは】
 - ・【部内のみで利用するAIサービスについて】
 - ・【利用規約】

- 教育イノベーション推進部との連携による最新技術の導入
株式会社メディアリンク教育イノベーション推進部のご協力により、以下の取り組みを実施しました。
 - ・ ChatGPT最新バージョンの公開：社内で利用可能なChatGPTを最新バージョンへアップデートし、より高度な業務支援が可能な環境を構築しました。
 - ・ 活用講義の開催：GeminiやNotebookLMの具体的な活用方法に関する社内向け講義を開催。最新のAIツールに対する理解を深め、業務への応用力を高める機会を提供しました。

(4) 社内インフラの管理およびメンテナンスの強化 (IT総務部 ITチーム)

社内インフラ全般について、最新技術の導入と計画的なメンテナンスを行い、より快適かつ安全な業務環境の高度化を推進しました。

- リモートサポート体制の強化
資産管理操作ソフトのリモート機能やGoogleリモートデスクトップを活用し、遠隔地からでもリアルタイムで迅速なサポートを行える体制を構築しました。これにより、拠点や場所を問わずトラブル対応の充実を図りました。
- IT資産管理の適正化
資産管理サーバーのアップデート計画を策定しました。これにより、新たな管理機能の追加やシステムの安定性向上、およびセキュリティの強化を図ります。
- セキュリティ対策の継続実施
巧妙化するサイバー脅威への対策として、新たにEDR(Endpoint Detection and Response)を導入しました。これにより、端末レベルでの監視・検知能力を高め、より強固なセキュリティ体制を構築しました。
- ネットワーク環境の最適化
一部の老朽化したネットワーク機器について、最新の機器への更新を実施しました。通信の高速化と安定化を図ったことで、全社的な業務生産性の向上に寄与しました。

(5) 業務効率化に繋がる新しい技術の探索および導入 (IT総務部 ITチーム)

令和7年度は、多様化する働き方を支えるためのインフラ整備(ネットワーク機器の更新やEDRの導入など)を優先し、安定した環境づくりに重点を置いて取り組みました。

そのため、新しい技術やツールの導入については基礎的な情報収集を行うに留めました。本年度に整えたインフラ環境をベースに、令和8年度以降、業務効率化に寄与する新たなソリューションの検証・導入を段階的に進めていく方針です。

(6) 従業員の働く環境をサポート (IT総務部 総務グループ)

-1 ハラスメント相談窓口の設置

引き続き相談しやすい環境を整え、相談には公平に、相談者だけでなく行為者についても、プライバシーを守って対応しております。

-2 離職をさせないために

上記ハラスメント相談窓口とは別に、離職の原因となる、妊娠出産・子育て・入院・介護等の仕事上の事だけでなく、これらのプライベートな相談にも対応する相談窓口を設置いたしました。

-3 従業員同士のコミュニケーションの場の提供

令和7年度は集合研修を実施し、その後に交流会を開催することで従業員のコミュニケーションを図りました。

IX 運営に関する事項

(1) 役員名簿

理事長	久保田了司	当財団代表理事
常務理事	久保田庸弘	当財団業務執行理事
理事	清水 康敬	東京工業大学 名誉教授
	永岡 慶三	早稲田大学 名誉教授
	伊東信一郎	ANAホールディングス株式会社 特別顧問
	佐野 元昭	株式会社ケイ・アイ・エス情報科学研究所 取締役会長
	伊庭野基明	グローバルキャリアカウンセラービジネスコーチ
	田中 純一	一般社団法人ビル減災研究所 代表理事
	平田 英世	富士通株式会社 元シニアアドバイザー
	秋田 義一	一般社団法人話力総合研究所 代表理事
	古賀 伸明	元 連合会長、(公社)国際経済労働研究所 会長
	野田 弘子	プロビティコンサルティング株式会社 代表
監事	鈴木 重文	弁護士
評議員	米里 文明	株式会社インフィニトラベルインフォメーション 元代表取締役社長
	稲葉 徹	センクシア株式会社 前社外役員
	大串 夏身	昭和女子大学 名誉教授
	唐澤 誠	株式会社唐澤誠建築音響設計事務所 代表取締役
	近藤 孝夫	株式会社同学社 代表取締役
	石原 端子	沖縄大学 准教授

(2) 会議の開催

-1 第1回理事会(通常)

開催日：令和7年6月5日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和6(2024)年度事業報告書・決算報告書

株式会社メディアリンクへの業務委託報告

新任評議員の紹介

-2 第1回評議員会(定時)

開催日：令和7年6月26日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和6(2024)年度事業報告書・決算報告書

株式会社メディアリンクへの業務委託報告

役員報酬について

新任評議員の紹介

-3 第1回 霞が関7号館PFI&AVCC共有会議

開催日：令和7年7月18日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和6年度霞が関ナレッジスクエア事業報告及び意見交換

参加者：文部科学省大臣官房会計課

霞が関7号館PFI株式会社(東京建物株式会社) ビルマネジメント第一部

一般財団法人AVCC 霞が関ナレッジスクエア

-4 第2回 霞が関7号館PFI&AVCC共有会議

開催日：令和7年12月17日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和7年度霞が関ナレッジスクエア事業上期報告及び意見交換

参加者：文部科学省大臣官房会計課

霞が関7号館PFI株式会社(東京建物株式会社) ビルマネジメント第一部

一般財団法人AVCC 霞が関ナレッジスクエア

-5 第3回理事会(通常)

開催日：令和8年3月10日

開催場所：霞が関ナレッジスクエア

主な議題：令和8(2026)年度事業計画書・収支予算書

株式会社メディアリンクへの業務委託予定

(3) 会員等(令和8年3月)

賛助会員：42団体

協賛メンバー：27団体

Web会員：32,212名

【令和7(2025)年度事業報告の附属明細書について】

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する事業報告の附属明細書として記載するべき「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

以上